

令和7年度音戸中学校区研究推進計画（現状値入力をお願いします。）

校番 27 呉市立音戸小学校

校長名 中 舂 智 子

1 学校教育目標

夢をもち、自ら動き、たくましく生活する児童生徒の育成

2 目指す児童生徒像

ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資 質 ・ 能 力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて適切な調べ方を選択して集めた情報を批判的に分析・整理して、効果的に表現することができる。	様々なコミュニケーションを通して、思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、地域社会に参画しようとする。
中期		目的に応じて調べ方を工夫し、収集した情報を目的意識や相手意識を持ちながら分析、整理して、表現することができる。	コミュニケーションを通して、互いの良さを生かし、協働して解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、自分ができることを考え、実践しようとする。
前期		多様な調べ方を知り、収集した情報を比較したり、関係付けたりしながら分析して、整理することができる。	他者とコミュニケーションをとりながら、協働して、課題を解決することができる。	学んだことを自分の生活や地域（音戸）のために生かそうとする。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区では、令和6年度の課題として「問いの意図をつかむこと」、「資料をもとに自分の考えをもつ（書く）こと」を共通認識し、研究授業を通して従来からある音戸中学校区授業モデルをブラッシュアップしながら児童生徒が主体的に考える授業づくりを行った。これにより、小中で授業の目指す方向について見出し、教職員で共通認識を深めることができた。また、小小・小中連携を計画的に行うことで各校の様子を交流する機会が増え、児童生徒理解も進めることができた。

しかし、本中学校区の児童生徒の課題として、基礎学力の不足、自己肯定感の低さ、将来の夢や希望をもつこと、地域社会の一員としての自覚が低いこと、そして生活リズムの確立が十分とは言えないことがあげられる。小中共通で、「わかる」「できる」「次はこうしたい」と実感できる授業づくり、安心して学べる環境づくりの推進と、自他を認め合い、自信を育む教育活動を充実させ、自律的に健やかな心身を育成する場の設定を通して本中学校区の課題を改善し、研究主題に迫っていきたい。

令和6年度の全国学力・学習状況調査による各校と全国との比較は次のとおりである。

国語	知識・技能	思考・判断・表現
H小 6年	- 5. 6	- 7. 5
O小 6年	+ 1. 6	+ 5. 4
9年生	- 1. 3	- 2. 7

算数	知識・技能	思考・判断・表現
H小 6年	- 5. 2	- 5. 6
O小 6年	+ 11. 3	+ 13. 9
9年生	- 7. 3	- 2. 1

これらの数値から、小学校、中学校の各教科において全国との差が大きくあり、基礎学力（教科書の内容）の定着を図ること、日々の授業改善が急務である。授業改善では、相手意識や目的意識を明確にした課題を設定し、課題に対して自ら「問い」をもち、解決に向けて協働的に学び合えるような場が必要であると考え

る。また、令和6年度 呉市教育振興計画の R8 指標との差及び令和6年度県平均との差は次のとおりである。

児童生徒 質問紙調査項目	自分にはよいところがある と思っている (県平均との差)	将来の夢や希望を持 っている (県平均との差)	地域や社会をよくする ために何かしてみたい と思いますか (県平均との差)
H小 6年	- 23. 9 (-24.0)	- 6. 7 (+0.5)	- 10. 4 (-5.3)
O小 6年	- 13. 5 (-13.6)	- 4. 2 (+3)	- 4. 3 (+0.8)
9年生	- 8. 4 (-8.5)	- 19. 0 (-11.8)	- 7. 7 (-2.6)

これらの数値からも、児童生徒が互いによさを認め合いながら安心して学んで、自信を育む教育活動の工夫を通して、夢や希望をもち、主体的に学びに向かえるようにしていく必要がある。

さらに、本中学校区共通で実施している生活リズムの肯定的評価集計結果は以下のとおりである。

項目	メディア1時間以内
H小 6年	37.2%
O小 6年	75.7%
9年生	29.5%

これらの数値から、特にメディアコントロールに課題があることがわかる。家庭と協力しながら、自律的に健やかな心身を育成する場の設定が必要である。

(3) 令和7年度研究仮説

全ての児童生徒が、自ら健やかな心身をつくることのできる取組を充実させ、安心して学んで、自他を認め合える環境をつくり、授業の中で「わかる」「できる」「次はこうしたい」と実感できる授業づくりを行うことを通して、学ぶことへの意欲をもち、主体的に取り組めるようになれば、中学校区全体の基礎学力を上げ、将来への希望を持った音戸中学校区の目指す児童生徒の資質・能力を育成することができると考える。

5 研究内容

＜学力向上部会＞

～基礎学力向上のための「わかる」「できる」「次はこうしたい」を実感できる授業づくり～

※本年度は、基礎学力を教科書の内容（学習指導要領に基づく）と定義づけて取組を行っていく。

① 児童生徒が主体的に学習に参加できる授業づくり

- ア 特別支援教育の視点を取り入れた音戸中学校区授業モデルづくりと活用（別途添付）
（全ての児童生徒が「わかる」「できる」）
- イ 自分の考えをもたせるための手立ての工夫
- ウ 複数の選択肢と自己決定の機会の充実（「次はこうしたい」）
- エ 授業参観シート，ICT の効果的活用による子どもの姿からの研究協議
- オ 「わかった」「できた」「次はこうしたい」の記録が残る振り返りと活用

② 基礎学力向上の取組

- ア 児童生徒のつまずきの要因分析にもとづく授業改善
- イ 効果的な反復学習
- ウ 中→小，小→中へ，効果的乗入れ授業の実施

③ 地域の環境や人材を積極的に活用

- ア 生活科・総合的な学習の時間でのカリキュラムマップの活用
- イ 「人」・「もの」・「こと」のつながりを意識した単元づくり
- ウ 目的意識や相手意識を明確にしたパフォーマンス課題の設定（表現の場）

＜生徒指導部会＞～自他を認め合い，自信を育む教育活動の充実（居場所・つながりづくり）～

① 安心して学べる基盤づくり

- ア 学習規律の徹底
- イ 生徒指導の4つの視点を生かした安心して学べる環境づくり
 - （1）自己存在感の感受
 - （2）共感的な人間関係の育成
 - （3）自己決定の場の提供
 - （4）安全・安心な風土の醸成
- ウ 感情コントロールトレーニング
- エ 学級活動，縦割り班活動，児童会・生徒会活動の充実
- オ 異学年交流
 - ・小小，小中，保幼小連携
- カ 情報モラル教育の充実
 - ・児童生徒とともに，保護者への啓発・理解促進を図る。

② がんばりを認められる場の設定（実態に応じて各学校で設定する。）

- 例・あいさつ名人
 - ・親切さんありがとうボックス
 - ・新体力テスト
 - ・ノート大賞

- ・そうじ名人
- ・持久走大会
- ・委員会・クラブ活動等、また、各種表彰

＜生活指導部会＞～自ら健やかな心身をつくる取組の工夫（からだ・こころクラブ）～

① 基本的な生活習慣の定着

- ア 早寝・早起き・朝ごはん
- イ 学校給食を活用した食育の充実
- ウ 保護者を巻き込んだメディアルール確立
 - ・自分の課題にあったメディアルールの自己決定（選択肢を参考）
- エ 児童ストップ9、生徒ストップ10の徹底（数字はメディア終了時刻）

② 体力向上の取組

- ア 陸上記録会などの小中連携
- イ 「くれ・チャレンジ・マッチ」への取組交流
- ウ 体力テスト結果からの課題把握・実践交流

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 授業の中で「分かった」「できた」と感じたか。	児童生徒アンケート	肯定的回答をした児童生徒の割合（4段階評価）		80%
② 基礎学力（教科書の内容）は高まったか。（※）	同一集団の2学期テスト平均点比較	得点率40%以下の児童生徒の割合	小学校国語5% 小学校算数9% 英語（中学校）49%	小学校4%未満 中学校30%未満
③ 自己肯定感は高まったか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	1～6年84% 7～9年77%	1～6年90% 7～9年80%
④ 自分のよさを認められていると感じているか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合		
⑤ 生活リズムの確立はなされたか。	児童アンケート 保護者アンケート	・自分に合ったメディアルールを保護者と一緒に決め、守れた児童生徒の割合 ・ストップ9、10を守れた児童生徒の割合	1～6年 % 7～9年 %	現状値+10%

【検証の視点※②について】

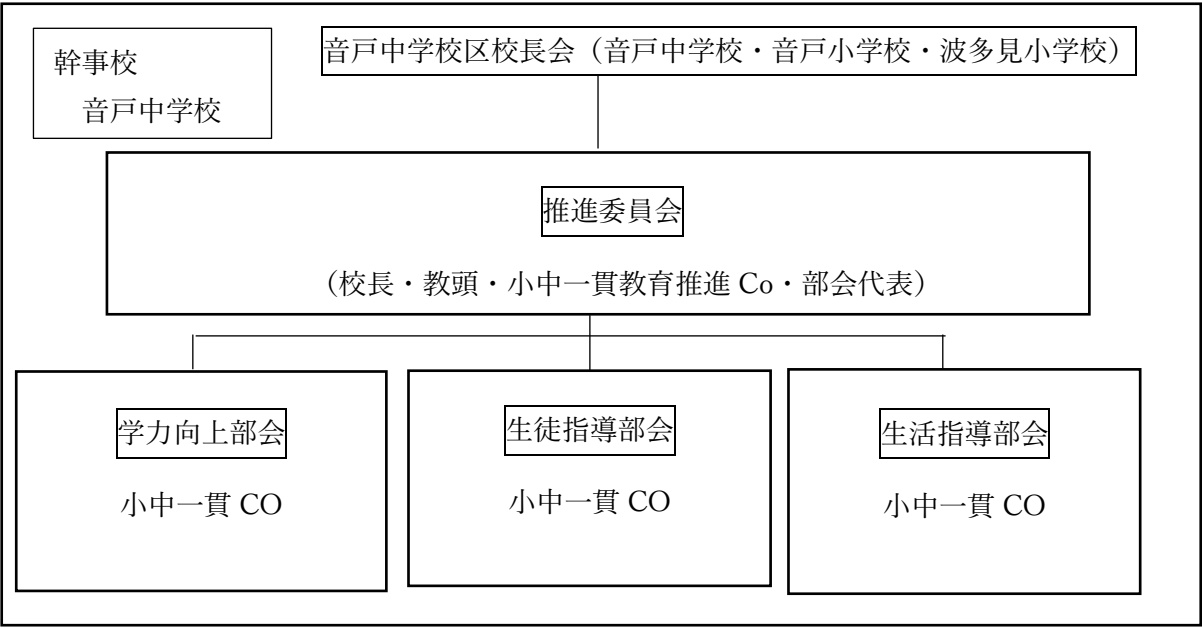
・学校の2学期テストの平均点で、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の合計通過率40%未満の児童の割合を、前学年同一集団より減らす。

- ・2学期全テストの平均点
- ・中学校もどの教科も使って見取る。（2学期中間期末テスト）

7 推進体制

(1) 研究構想図 (別途作成)

(2) 推進組織



※ 各部会に各校管理職が2名ずつ入るようにする。

(3) 一部担任制実施計画

ア 異学年交流 (小→小, 中→小)

- ・音戸小と波多見小の同学年交流 (随時) (小→小)
- ・小学校第6学年 総合的な学習の時間 (3学期実施) (中→小)

イ 小学校教科担任制等

- ・波多見小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (理科)
第4学年, 第5学年, 第6学年 (図工)
- ・音戸小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (理科)
第5学年, 第6学年 (体育)

←令和6年度のま

ウ 乗り入れ授業 (月一 中→小へ, 試験期間中 小→中へ学力補充)

8 推進計画

小中合同研修会の計画 R7 3月27日現在

月 日	内 容		
	音戸中	波多見小	音戸小
月 日 ()			校内研究授業○
4月16日 (水)	第1回推進委員会 (推進計画・研修計画検討合同研修会の持ち方)		
5月 日 (木)			
4月30日 (水)	音戸中学校区小中一貫教育①総会 (推進計画・研修計画確認) (音戸中)		
5月29日 (木)	小中一貫教育コーディネーター会① (6月20日について指導案)		
6月5日 (木)	第2回推進委員会		
6月20日 (金)	音戸中学校区小中一貫教育② 音戸小学校 研究授業 (教科) モデル授業 中学校区教員 全員参加☆ 終了後miniCO会②8/23について		

8月4日（月）	小中一貫教育コーディネーター会③（8月25日について）		
8月25日（月）	音戸中学校区小中一貫教育③合同研修会（全国学力調査分析等）（音戸中） スクールカウンセラー小中合同研修 小小連携打合せ		
10月21日（火）	音戸中学校区小中一貫教育④研究授業（音戸小） ★研究授業⑥	学びの变革	任意参加☆≡
10月31日（金）	音戸中学校区小中一貫教育⑤研究授業（音戸中） 終了後 miniCO 会④ 11月11日について	学びの变革	全員参加☆≡
11月11日（火）	第3回推進委員会（学びの变革 合同研修会の持ち方）		
11月28日（金）	音戸中学校区小中一貫教育⑥研究授業（波多見小）	学びの变革	任意参加☆≡
1月21日（水）	小中一貫教育コーディネーター会⑤		
2月9日（月）	第4回推進委員会（総会の持ち方）		
2月26日（木）	音戸中学校区小中一貫教育⑦ 総会（音戸中）		
3月10日（火）	小中一貫教育コーディネーター会⑥		
3月17日（金）	第5回推進委員会（次年度の推進の方向性の確認）		

R8 4月1週目，推進委員会
（顔合わせ，方向性の確認）